

入院生活を快適に過ごしていただくために



■訪問歯科診療サービス

歯科医による訪問歯科診療サービスが受けられます。一般歯科診療・口腔ケア(下記参照)・落ちにくい入れ歯汚れのクリーニング等を行い、入院されている患者様の健康をサポートしています。

- ・虫歯や歯周病の予防 ・味覚の改善 ・誤嚥性肺炎の予防
- ・全身的な感染症の予防 ・口臭予防

- ご利用方法 各フロアのナースステーションへお申し出ください。
- 料金メニューとお支払い方法 料金は、治療によって異なります。お支払いは、直接業者へお支払いします。

訪問歯科：デンタルサポート株式会社

■訪問美容サービス

当院では月に2回、移動美容サービスを行っています。カット・カラー・パーマなど患者様のリクエストにお答えしています。入院中だからこそ、おしゃれをしましょう!

- ご利用方法 各フロアのナースステーションへお申し出ください。
- 料金メニューとお支払い方法

カット ¥2,000 / 丸刈り ¥2,000 / パーマ ¥5,500
 カラー ¥2,000 / シャンプー ¥500

パーマとカラーはカットが無料です。お支払いは、現金か、または郵便振込みです。

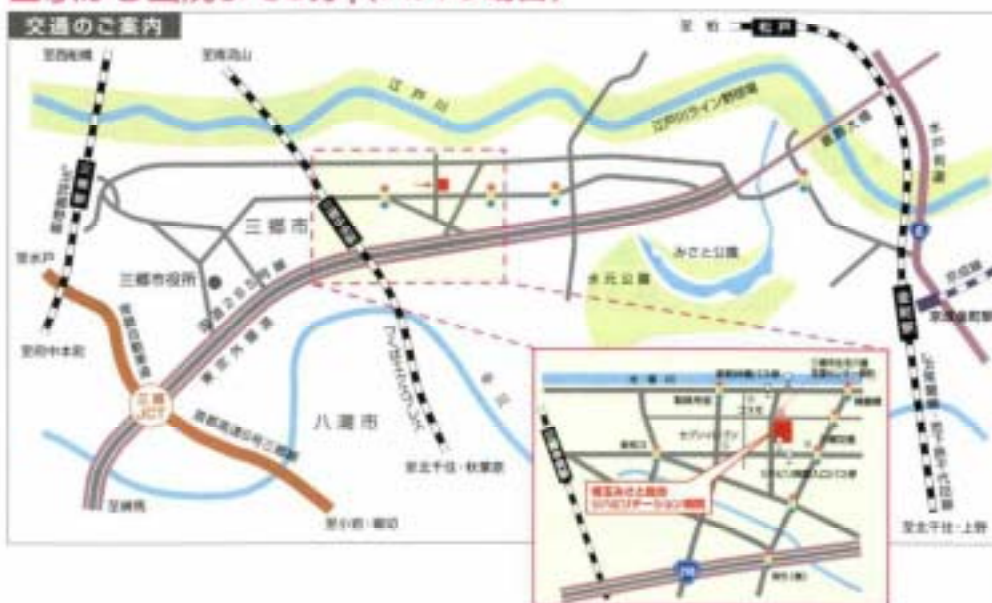
訪問美容：デンタルサポート株式会社



■「秋葉原駅」から下車駅「三郷中央駅」まで最速20分。「つくばエクスプレス」で当院へ行こう!



■駅から当院まで5分!(バスの場合)



- お車の場合
 - ①首都高速6号三郷線、常磐自動車道「三郷C出口(東)」より、5分
 - ②東京外かく環状自動車道「外環三郷西C」出口より、約10分「三郷南C」出口より、約5分
- 電車の場合
 - ①つくばエクスプレス「三郷中央駅」より、約3分東武バス
 - 金54 新三郷駅発金町駅行き「リハビリ病院入口」バス停下車徒歩1分
 - 金52 三郷団地発金町駅行き「新和仲橋」バス停下車徒歩1分
 - ②地下鉄千代田線「金町駅」・京成電鉄金町線「京成金町駅」より、約5分東武バス
 - 金54 金町発新三郷駅行き「リハビリ病院入口」バス停下車徒歩1分
 - 金52 金町発三郷団地行き「新和仲橋」バス停下車徒歩1分
 - ③JR武蔵野線「三郷駅」より、約10分東武バス
 - 金54 新三郷駅発金町駅行き「リハビリ病院入口」バス停下車徒歩1分
 - 金52 三郷団地発金町駅行き「新和仲橋」バス停下車徒歩1分
 - ④JR常磐線「松戸駅」より、約10分タクシー・松戸有料道路を使用した場合

編集後記

寒風吹きすさぶ中、雙気に咲く梅一輪を見つけました。医療界にとって激動の年になるに違いない、2006年が明けて間もない頃のことです。

「銀葉(かんなん)、汝を玉とす」
 「憂きもの上、おの上に頼れかし限りある身のたためん」(山中樵之介)

医療連携室 船橋 満春

PLAZA IMS 新春 プラザイムス

2006/新春号 Vol.5

埼玉みさと総合リハビリテーション病院

一病院理念一

リハビリテーション医学を実践し患者様の幸せ・満足に貢献する病院

一基本方針一

- ・高度な医療・看護・リハビリテーションの知識を高め実践します。
- ・チームアプローチに基づいた医療を提供します。
- ・早期の患者様の社会復帰を目指します。

病院概要

開 院 / 昭和47年 平成15年12月(新館・増床)
 開 創 者 / 理事長 三妻 忠 中村 昌夫
 院 長 / 黒木 副武
 病 床 数 / 回復期リハビリテーション病棟 120床(2F)(4F) 療養病棟 55床(3F) 計 175床
 診療科目 / リハビリテーション科、内科、神経内科
 施設内容 / 回復期リハビリ病棟、療養型病棟、総合リハビリテーション施設A、看護研究施設(1)
 主要設備 / マルチスライスCT、X線テレビ観測装置(VF)装置、特殊浴室、リハビリ病室
 附属施設 / 総合介護センター、高齢リハビリテーション・三郷市在宅介護支援センター新和・居宅介護支援事業所

興 行 / 埼玉みさと総合リハビリテーション病院
 医療連携室
 発行日 / 2006年1月
 〒341-0034 埼玉県三郷市新和5-207
 医療法人三妻会 埼玉みさと総合リハビリテーション病院
 TEL 048-953-1211(代表)
 FAX 048-952-0127
http://www.ims.gr.jp/saitama_misato/



●病院長 黒木 副武

「新春号発刊によせて」 新年おめでとうございます。

2006年は、大幅な医療費改定を含む「医療制度改革」が必須です。国庫財政難の折、節約は必要ですが、大幅に国民の負担が増えるような改革は、国だけが痛みを伴わない方法で、賛同は得られないでしょう。例えば「回復期リハビリテーション病棟」については、在宅の役割を担う観点から厚生労働省も注目、脳障害と運動障害、重症度などで点数化をしていくようです。こうした改定は、かえって患者様の入院の適応を狭める可能性もあると考えられます。昨秋からの介護保険施設の食費・居住費負担増の件も、それによって入所が困難になるケースもあるというのは、すでに報道されている通りです。

さて、当院は開設より2年が経過しました。昨年9月からは、回復期リハビリテーション病棟を増設、120床とし、急性期治療を終えられた患者様の受け入れも1週間ほどでできる状況です。当院は、脳障害のリハビリを中心とした病院で、脳血管障害・脊髄損傷・脳挫傷などの患者様が約90%を占め、約10%が骨折などの疾患です。当初よりリハビリ適応があれば原則受け入れており、中でも失語症・嚥下障害・高次脳機能障害などは7名の言語聴覚士が対応、そのリハビリに積極的に取り組んでいます。また、埼玉県の最東に位置し、東京都葛飾区・千葉県松戸市と隣接、3都県からの患者様を広範囲に受け入れています。



電車では「つくばエクスプレス」の開業で「秋葉原駅」から下車駅「三郷中央駅」まで最速20分、同駅から約5分(バスの場合)で到着できます。お車でも、昨秋開通した東京外環自動車道「三郷南インターチェンジ」から約5分と、アクセスがますます便利になりました。2000年に始まった回復期リハビリテーション病棟は、今や全国でおよそ600病棟30,000床となり、今まで以上にリハビリの質が問われています。「全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会」の調査によると、リハビリスタッフ数が多いか少ないかという「二極分化傾向」にあるといい、入院を検討する際の一つの目安にもなります。当院は約50名のリハビリスタッフですが、今年度はさらに増員を図り、充実をはかってまいります。本年も一層高度な医療・看護・リハビリの提供を目指してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

特集 専門職の垣根を越えて 2

— チームアプローチに基づいた医療の提供 —

■ 医局 ■

回復期リハビリテーション病棟における医師の役割は、大きく2つあります。

1) リハビリテーション医としてチーム医療の一角を担います。2) 患者様の「病棟のかかりつけ医」として、

- 診察・評価に基づくリハビリテーション処方
- 特に摂食・嚥下障害について、必要に応じて嚥下造影検査を施行
- 患者様ごとにカンファレンス(検討会議)を行い、個別の目標に合わせて全体方針を検討
- リハビリテーションの訓練状況を確認し進行調整をする
- 患者様やご家族への病状説明

医療的管理を行います。

- 診察・全身状態評価
- 生活習慣病の管理
- 薬剤治療
- 急変・再発作時の対応

ある1日の動き

- 9:00 医師間申し送り、入院予定者確認、事務連絡確認
- 9:30 病棟回診開始
新入院患者到着:前医からの情報を確認し診察、リハビリ指示
薬剤処方・定期検査の指示作成
- 12:30 急に発熱した患者Aさんを診察し、緊急検査指示などの対応
- 13:30 カンファレンス(検討会議)で患者Bさんの状況について討議
- 14:30 X線検査室で嚥下造影検査
- 15:30 患者Cさんの装具の必要性について整形外科医師に相談
- 16:30 患者Dさんとご家族に病状およびリハビリテーション状況の説明
- 17:00 診断書・診療情報提供書の作成



■ 社会福祉相談室 ■

当院は、社会福祉の専門家である医療ソーシャルワーカーが5名在籍しています。入院から退院まで担当医療ソーシャルワーカーが、病気に伴う経済的・社会的・心理的なご相談について、問題解決のお手伝いをしています。

ソーシャルワーカー援助のながれ

1 入院相談

急性期病院などからご紹介をいただいた患者様のご家族様に、病院内を見学していただき、当院の機能概要の説明を行います。今後の入院に伴う経済的・心理的な不安をお伺いし、必要に応じて高額療養費制度等の社会資源の情報提供を行います。



2 入院日

ご本人様・ご家族様と面談をし、現在のお気持ち・今後のご希望等についてお伺いします。各担当者が集まり、入院時のご本人様の医療・身体状況について把握します。医療ソーシャルワーカーはご本人様・ご家族様のご希望をお伝えしています。

3 初回カンファレンス(検討会議)

カンファレンスに参加し、ご本人様の状況を把握し、医師・リハビリスタッフ・看護師とともに今後の目標や課題について話し合います。

4 病状説明

医師からの病状説明後、ご本人様・ご家族様と面接を行います。在宅復帰に向け、介護保険・身体障害者手帳の取得等、必要な社会資源の情報提供を行います。

5 在宅復帰への準備

● 担当者会議
地域サービス担当者にご来院して頂き、リハビリスタッフ・看護師より、医療・身体状況をお伝えする機会を設け、在宅サービス利用の相談を行っています。ご本人様・ご家族様が安心して生活できるよう、地域への橋渡しをしています。



● 家屋評価

リハビリスタッフ・医療ソーシャルワーカーがご自宅を訪問し、手すりやスロープなどの必要性を検討します。

6 退院



嚥下造影(ビデオX線透視検査)とは・・・

当院では、ビデオX線透視検査 (videofluoroscopic examination of swallowing: VF) を実施しています。脳卒中を発症した患者様の約30~50%が嚥下障害を合併するといわれています。VF検査は、造影剤を含んだ食品をX線透視下に嚥下、ビデオに記録して解析する検査です。体位や食品の形態などを変えて治療・訓練に役立つ情報を得て、誤嚥しない方法、口腔から食道への通過しやすい方法などを評価・検討します。検査時には、必ず医師・言語聴覚士が立ち会います。